

# 令和元年度 第2回宗像市男女共同参画推進懇話会（議事録）

日時：令和元年9月30日（月） 15時00分～

場所：宗像市役所北館 203会議室

出席者（敬称略）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石山 さゆり	○	井川 春奈	○	蟹川 美和	○
小森 雅子	○	八尋 照代	欠	高山 芳文	○
山田 雄三	○	永嶋 久子	○	占部 圭司	○

## 1 はじめのあいさつ

●=事務局 ○=委員

宗像市男女共同参画推進懇話会 会長 石山さゆり

## 2 議事録署名人選出

議事録署名人： 井川 春奈 委員

## 3 議事

### （1）前回議事録について（資料1）

- 修正点なし。承認

### （2）平成30年度男女共同参画プラン評価について（資料2・3）

#### 資料3（男女共同参画プラン評価）

- 各委員の評価を数値化し、平均値を懇話会評価としている。（評価方法は昨年同様）  
懇話会評価が二分した事業について協議し、評価を固める。

#### \* P1【事業番号2（介護者の負担軽減）】

- 補足説明～「障がい者福祉サービス等の実施」について  
市で策定している障がい者福祉計画のなかで、制度的に福祉サービスが決まっている。申請に基づき適切に給付したか否かで、担当課は評価を判断している。

☆協議の結果＝評価A

#### \* P3【事業番号12（仕事と家庭の両立支援）】

- 補足説明～男性の育児休業について実績を報告  
H30年度実績は33%で取得者数は2名程度。H29年度は対象者はいたが0%。H28年度は該当者なし。担当課は、適切に勧められたと判断している。
- 目標数値はどのくらいを目指しているのか。100%を目指しているのか。
- 目標の確認ができていない。
- 全体の数値が元々少ないという事だが、その中で取得している職員もいるので、Aで良いと考える。
- 他の自治体の平均値や国の報告を調べたが、平均値等は出ておらず比較する資料が無かった。
- 希望としては100%取得して欲しいが、そう出来ない現状があるのか。

- 昨年のケースで、希望したが取得できなかったというものがあつた。  
 専門職の男性職員は代替えが効かず、事業の進捗状況も関係して取得を断念せざるを得なかったようだ。女性産休代替職員の場合も、専門職に関しては専門の資格を持った人を代替職員としている。男性の場合は育児休業を1年単位ではなく数カ月単位となるため、代替えが見つかりにくいという事も影響していると考えている。
- 今後、どのようにすれば専門職の職員も育児休業を取得できるかを含め、新たな計画、取組を記載して欲しい。

☆協議の結果＝評価B

\* P 6 【事業番号 22（防犯の意識啓発）】

- 補足説明～宗像警察署や防犯協会との連携について  
 春と秋の交通安全週間が主の取り組みである。他には、夏頃に地域の青パト登録車に集合してもらい出発式を行う青パト大集合等を主な取り組みとして実施している。市と警察署、防犯協会の連携を定例的に取り組んでいる点で担当課は評価をしている。
- 活動と啓発については報告の通りで良いと思うが、実際の犯罪率は減っているのか。
- 最新情報の把握は出来ていないが、宗像市は青少年の犯罪が少ない。青少年の薬物使用についても0%となっている。宗像市の犯罪件数自体、元々少ない。割と早くから青パトを導入したり、襷を掛けて行う防犯活動がテレビで紹介されたこともあり、宗像市では犯罪が少ないのではないかと考えている。  
 今回の担当課の取り組みは地域の視点ではないが、市としては地域に対しての働きかけはしっかり出来ていると考えている。

☆協議の結果＝評価A

\* P 7 【事業番号 26（男女共同参画に関する情報提供）】

- 補足説明～市民課ロビー表示板や広報紙を通しての啓発活動について  
 出来る事はやったと考えているが、例えば広報紙を通じての啓発活動は、広報紙の紙面圧縮の都合上、以前、年12回だったものが他課と連携して年4回と減ったので、H29年度と比較すると啓発の機会が減っている。しかし、男女共同参画推進センター職員が、赤間地区と東郷地区で年3回男女共同参画に関する女性週間を利用して街頭啓発を実施している。  
 男女共同参画推進課も地域に出向き啓発活動を始める等、広報紙での啓発活動が減った部分を補い、啓発活動をキープではなく強化する方向で進んでいると判断し、評価している。
- 実際に、この取り組みで地域の方へどれ程が伝わっているのかとなると、なかなか難しいと実感している。
- 同じ事業の取り組みをしている人権対策課や秘書政策課だと割と具体的な報告があるが、男女共同参画推進課の場合は情報提供について何か具体的な事が決まっているのか。
- 情報提供の仕方については、市民課ロビーに広告を流すテレビを設置している

ので、男女共同参画週間や「女性に対する暴力をなくす運動」期間等にお知らせを流し、来庁者へ情報提供する方法。広報紙に年4回の掲載。他には年1回、メイトム宗像で開催している「ゆいフェスタ」でパネル展示などを使い情報を提供している。

- 内容については人権対策課や秘書政策課と重なるところも含まれているのか。
- 男女共同参画に関しての啓発や情報提供であり、他課と重なっていない。
- 今後の取り組みの欄に、今述べられた事をそのまま記載してもらおうと分かりやすい。
- 個人としてB評価である。理由は、啓発活動に終わりはないと考えているからで、A評価が来る日はないと思う。では何を持ってA評価とするのかについては、例えば年間の予算を使い切るとというのが目標であればそうかも知れないが、やれば良いという事でもない。内容を追求するという意味ではBと評価するのが妥当だと評価した。

☆協議の結果＝評価B

- 以上で評価がすべて固まった。まとめたうえで懇話会評価とする。

資料2（基本施策ごとの評価）

- 例年、懇話会が2回しか開催されないため事務局が案を作成しているが、今年度は、委員の意見を伺うことで第3次計画にも役立てたいと考えている。  
委員意見を・ごとにまとめているので、上から順に意見1)としてカウントする。事務局で意見書にまとめる箇所(文言)を基本施策ごとに抜粋し、説明する。

\* P1 基本目標1-1 家庭生活における男女共同参画の推進【男性の家事・育児参画】

- 意見1) 2行目 やれる時にやれる人が
- 意見2) 3行目 各分野で継続的に手法を試みながら
- 意見3) 1行目 夜間・週末実施が効果的
- 意見10) 1行目 男性の家庭参画の促進に関して

＝以上を踏まえ、対象をハッキリさせるという点で男性向け事業を中心にまとめたいと考える。

- 意見8)の「男女という性別のくくりを取り払い」の部分に共感した。女性にもしない人は結構いるので、「性別のくくりを取り払う」事は大切な事に思う。男性の家事育児参画という基本施策タイトルなので男性に焦点化されているのだろうが、既に大人になった男性に教育するのは大変難しい。幼少期から、日頃の生活の中で手伝いなどを通して「男女区別なく」が染み入るようにする事がとても大切だと思う。
- LGBTやSOGIの視点からだ、人としてどのように生きて行くのかを考えていく。男性の参画、女性の活躍は表面的にはとても大事ではあるが、ベースの部分でそれぞれ男性、女性の認識はあっても、性はグラデーションと言われるようにきっちり分けられるものでもないと思う。家事育児をどのようにやって行くかは、人が作った社会、家族での役割など、そこ独自のものであって欲しいと考える。教育の部分が大きいのだろうと思う。

- 基本施策重点事業のタイトルは変わらないのか。
- 文言に関しては臨機応変に対応できるよう検討していきたい。
- 全般に対して言えることだが、啓発イベント型からどのように実際の行動や変化に結びつけて行くのか。実際、地域で男女共同参画に取り組んでみて感じるのは、男性料理教室を実施して、市の何%の男性が参加しているのか。実際 0.何%であり、イベントを企画してある程度集まった事実はあるが、それがどこまで変化に繋がっているのか。自身がやり終えた感想として、砂漠に水を撒くだけの状態からもっと実際に何か変化を及ぼすような、男性のやっている人とやっていない人との学びのコミュニティ作りのような、もっと全体に広がるような取り組みとは一体何なのか。自身の反省も踏まえ、啓発に満足せず実際に変えるという先駆的なモデルを作るくらいの取り組みが必要になるのではないかと思う。
- 珍しいケースだと思うが、身近に70代半ば位でとても家事の上手な男性がいる。その方の生い立ちを聞くと物心の付いた頃からご飯を炊いたり、拭き掃除や掃き掃除など色々な手伝いをして来たようだ。その経験があつて、今もされているのだろうと実感している。大人になり、急にやりましようと言ってもなかなか身に付かないと実感している。大人になると砂漠に水一滴のような状況なのだろうから、やはり幼少期から男女共同とは別に、人として生活できるためのスキルを男女問わずに教えるべきだと思う。
- 男女共同のイベントだと参加しないが、生きるためのスキルとして位置づけ、生活する事、家事育児が人生においてどのような意味があるのか掘り下げて実施するという事であれば、感心層は広がるかも知れない。
- 大々的に男女共同参画と掲げると受け入れられない事もあるので、切り口を変えるのも良いのではないかと思う。
- 日の里地区でも男性料理教室を行っていたが、教室では料理しても家に帰って料理をするのはなかなか難しいようだ。しかし、中高年の男性が料理教室に参加することで、家での実践にまでは結びついていなくても、奥さんが大変な思いをしながら料理をしているという事は分かるようになったようだ。わずかだが参加者の意識も少しずつ変わってきているので、男性料理教室なども地道ではあるが無駄ではないと思う。
- 今の子ども達は両親が共働きという事もあり、何かをしなければいけない。生きて行くなかで、自分が家の中でどのような役割をしなくてはいけないのかを少しずつ理解してきている。

**\* P 2 基本目標 1-2 両立しやすい職場環境づくり【ワーク・ライフ・バランスの推進】**

意見 2) 3 行目 事業所への啓発活動

意見 3) 4 行目 取組事例等を紹介

意見 8) 2・3 行目 「事業(数値)目標」を明確に示す

＝以上から、事業所への啓発が十分でないことや、取組事例の紹介は必要だと感じている。数値目標や指針を示さないと事業所も取り組めないのではないかという点で、市が取り組んでいくべきとまとめたいと考える。

●意見4)「両立支援ハンドブック」を見たことがないという意見について回答。両立支援

ハンドブックは市職員向けであり、公表する物ではない。人事課が市職員向けに作成した「育児や介護との両立を支援する」ハンドブックである。(実物を提示)

- 事業所への啓発は難しいものなのか。
- 宗像市には大きい企業が少ないので、商工会を通じてどのように働きかけていくのかということになるが、商工会関係になるとどうしても家族経営が多いので、その辺りをどうしていくのが課題である。県が中小企業向けハンドブックを作成、発行しており、数年前に宗像市でも配布しているが、これを再度配布してなければいけないのではと考えている。女性活躍推進という事で、市も働きかけに力を入れる方針が決まっているので、課題として、企業への取り組みに関しては商工とも連携し、進めていく方向で考えている。
- 宗像市においては、どちらかと言えば企業に比べ市役所の方が先に進んでいるということだろうか。
- 市内の企業の中にも進んでいるところはある。例えば、宅配便業界でもヤマト運輸は国のモデルとしても紹介されているし、イオンやゆめタウンなど大手の企業は非常に取り組みが進んでいると感じている。しかし、全体の把握となると、今年度は予算の都合上、企業へのアンケート調査が実施できていない。ただ、女性活躍推進を進めていく中で、データも何もない状態で進める事は考えられないので、何らかの手段で情報の調査をしていく考えである。
- 先日も企業から「女性の活躍が進んでいる企業を紹介して欲しい」との問い合わせがあったので、民間企業もかなり意識しているのではと感じている。行政も女性管理職を増やしていく意識は進んでいるが、それ以外では民間企業の方が進んでいるように思う。働き手不足という点で、企業は女性の働きやすい環境を作り、戦力として考えて行かなければならない現状がある。他県のセンター連絡会議の中でも、企業向け啓発事業をどのように進めていくかという部分では、人材確保などの側面からの方が企業は入りやすいのでは、という話が出ていた。
- 自社は中小企業なので、持っている人材をフルに活かさないと売り上げが下がる。例えば、女性が「地域で役職を受けて頑張りたいので定時で帰りたい」と言った時、同じ部署の同僚が協力出来るのかというと難しい事もあるが、それが現実である。しかし過去には、一旦退社して町内会長の仕事をし、また戻って来るという社員もいた。そのように「やりたい」という社員に対し、周りは取り立てて冷たくする事もなく、「行って来い。そしてまた戻って自分の仕事をすれば良い。」という反応だった。これが多分、今の中小企業に求められている最大のところだと思う。やりたいと声を上げた社員に対し、行く事を止めない。その人の仕事を減らさない。そのために仕事を減らされ評価が下がるのはおかしな話なので、少なくとも自身は経営者の立場としてそうでありたいと思っている。しかし、では出来るのかということが正直難しかったりする。
- 人権や男女共同参画の啓発というのは、聞くというより体感しないと分からないと思う。例えば、企業内でそのような研修を受けられる機会があれば良いと思う場面はたくさんある。経営者は人権の指導が出来ないので、出来ない部分を補ってもらえたらと思ったことが過去に何度もあった。例えば、市なりが1時間だけでもセミナーを全社員対象に行い、それを社員が自宅に持ち帰り、それをどう思うかという所を期待するというやり方であれば、出来る企業や中小企業は他にもあるのではないかと思う。社員に対し、もっ

と勉強して欲しいと思う事もあった。女性が頑張ろうとしている時に、子どもがいるので帰らなければいけない時の支援などは、社員に対してもっと理解してやって欲しいと思う事はあった。男性でも「地域に参加したい」と言った社員がいるが、辛い時期は「お前は仕事も出来ていないのに」等と言ってしまいがちなので、そんな時に「みんなで地域も会社も支える」というような研修を受ける事が出来たならば良いのにと考えた事は過去にあったが実現しなかった。

- 企業向けに関しては、行政もまだ県事業で労働就職が中心であり、市町村が直接扱う事が少なかった事もありまだまだ勉強不足の部分がある。研修等に出向きどのような支援が出来るのかを含めて勉強中である。

#### \* P 3 基本目標 II - 1 あらゆる暴力根絶のための対策と推進【DV対策の強化】

##### 意見 3) 1 行目 関係機関との連携強化

##### 3 行目 幅広い支援体制の構築

＝現在は女性を中心としているが、多様な問題点も出て来ているので、今後はもっと幅広い視点から対応していく必要があるので、意見にまとめたい。面前DVの子どものケアに関しては、担当課である子ども支援課へ伝え、更なる連携を高め進めていきたいと考える。

- 意見 1) 3 行目にある小冊子の作成については、家庭に配布することで本当に危険な家庭では加害者を刺激することになりかねないうえ、対応はケースバイケースなどもあるので慎重に対応しなくてはならないと考える。

- 意見 5) ご指摘の通り、事業番号 15 の「情報漏洩の徹底」は情報漏洩の防止の徹底の間違いである。最終版では修正をする。

○DVに関する窓口は男女共同参画課だけでなく、他とも連携しているのか。

- 男女共同参画推進課への直接の相談は全体の割合からすると少ない。被害者自身にDVを受けている認識がない人も多いため、子ども支援課が子どもの事で相談を受けるなかで相談員がDVの疑いに気づいてだったり、市役所に「こころと生き方の相談」の相談室を設置しているのでそこからであったり、高齢者の担当からであったり、市民課では支援措置(住民票を取れなくなる手続き)を希望し相談に来ることで分かったりと、DV相談の入り口は複数あるので、連携をとりながら行っている。統計では、男女共同参画推進課単独の相談は 1/3 程度である。残りは他の関係部署との連携の中で分かったものである。他の連携の中には、県であったり配偶者暴力相談センターであったり警察から勧められて相談に来たケースも含まれている。

#### \* P 3 基本目標 II - 2 生涯を通じた女性の健康支援

##### 意見 4) 1 行目 「リプロダクティブ・ライツ/ヘルス」

##### 2 行目 浸透が難しい

##### 3 行目 わかりやすい概念説明

＝リプロダクティブとは「性と生殖に関すること」ではあるが、説明が難しく啓発もなかなか伝わりにくい。他の健康面も含めた形で啓発している段階であり、根本的な部分では伝えきれていない現状であり、課題として取り組みをしていく必要があると考えている。

- 「リプロダクティブ・ライツ/ヘルス」の考え方というのは、これ単独ではなくDVのところであつたり、自分の体は自分で守るということであつたり、成熟に関する権利である。これだけを取り上げると難しいので、他のところと連携して行えば言葉だけがひとり歩きする事もないのではと思う。
- 自身も男女共同参画推進課に配属になり最初に聞いたのがこの事であつたが難しく理解しにくかつた。
- 大学の授業でも年1回リプロダクティブを扱う。最初の頃、男子は「女子の話」として距離を置いていた。4～5年前は他の自治体にも取り組み例はなかつたが、今はいろいろな自治体が市町村レベルで取り上げ、講演会を行つたりホームページ上で分かりやすく説明をして若年層に対していつでも相談に来て良いという安心感の提供を行っている。望まぬ妊娠をして、どこに相談したら良いか分からず誰にも相談せず、周りにも気づかれずに公衆トイレで出産してしまったという話も時々ニュースで見る。これでは母親の事も尊重されず、赤ちゃんの命も大切にされない。これは若者の責任ではなく私たちの問題であり、地域が支え学校教育でもきちんと取り組まないといけない事である。若者であればあるほど社会と距離を置く。恥ずかしい事で親にも相談できない。学校教育でも早くから取り組まなければいけない事ではあるが、ネット時代の今、自治体が分かりやすい情報を提供するだけでもアプローチの距離感が違ってくると思う。あなたが悪いわけではないので自分を大事にして欲しいし、それを男子にも理解して欲しい。カップルの決断であり、自分たちが大事にされるという事なのだ和理解して欲しい。ここから始まつて行くと、将来、育児にすんなり入ることが出来るのでは。子どもを大事にする事はパートナーを大事にする事であり、自分も大事にする事に繋がる事が分かれば変わっていくように思う。分かりやすい取り組み例が他の自治体にもあるので、参考にして宗像市でも取り組んで欲しい。

**\* P 4 基本目標Ⅱ-3 みんなが安全に暮らせる社会環境づくり**

- 補足説明～意見7) 防災会議への女性参画を少なくとも3割以上とあるが、市の目標としては男女ともに4割を目標に設定している。

意見2) 1行目 弱者を守り、安全安心に暮らせる環境づくりのためにハードを整える必要性和同時に、見守るというソフト面

意見3) 1行目 防災・防犯の計画や啓発に女性の視点を取り入れる  
2行目 あわせて子どもや高齢者、障がい者の視点

＝以上を中心にまとめようと考えている。

- 共同体がなくなっていると実感している。みんなが安全に暮らせる社会環境づくりについて、ここに記載している他に何があるのだろうか。見守り隊や青パトなど実施しているが、隣に住んでいる人がどんな人なのか分からないといった様に共同体もなくなっているような気がする。
- 宗像市に於いてもその傾向がある。自治体加入率(世帯数)は昔9割程度だったが、現在は約7割程度に下がって来ている。人数的にはあまり変化はないが、単独世帯が増え未加入なため下降している。隣人が分からないというのは実際増えて来ている。団地の中のアパートも増えて来ており、その団地の中でアパートを自治会に入れる入れ

ないという話も聞く。

○町内会に入らないという問題が起きている自治会をどうするのかという事で、何故入らないといけないのか、メリットデメリットを書いて説明する等しないといけない。町内が全体的に自治区から外れたいという所も出て来ているようで、それは非常に危険だと感じている。何かが起こった時、自治会に加入していないところだけ置いてという事は出来ない。もっと詳しく説明をするなど何らかの手を打たないといけない。組織に入りたくないという人もいるが、生きている以上何らかの組織に入っているのだから、組織云々ではなく人としての役割を説明し、加入してもらえたらと思う。特にアパートは単身で住んでいるとか空き家になっているといった問題も抱えている。安全に暮らせるというのが一番重要な事である。

●市民課の窓口で、転入者に対し自治会の加入を勧めたり、若い世代の転入者を対象として自治会加入を条件に家賃補助や新築建築補助を行っている。しかし、自治会費を納めていても自治会側がアパートなので広報紙を配布していない等という事もある。難しい状況で、市としても課題と考えている部分である。

宗像市に限らず県全体や国でも、自治会役員等なり手がなく区長報酬など手当を上げて引き受けてもらうなど工夫している自治会もある。男女共同参画の視点でも自治会は大事で、国もやっと動き出し、昨年度のアンケート調査を基に今年から女性参画の実例集を作成する動きが出て来ている。

\* P 5 基本目標Ⅲ-1 男女共同参画意識の浸透

意見 2) 1 行目 男女共同参画の意識の浸透

3 行目 実践

意見 6) 1 行目 男女共同参画意識の浸透

2 行目 地域に根差した

=地域とどの様に取り組んでいくのか、言葉だけひとり歩きしないようにどう実践に結びつけていくのかの2点を中心にまとめたいと考える。

\* P 5 基本目標Ⅲ-2 教育・学習の場における男女共同参画の推進

意見 6) 1 行目 既に取り組まれていることを継続

1 行目 性的少数者への理解

意見 8) 1 行目 若い時の教育は大切。ここに力を注いでほしい。

=既に取り組んでいる事を継続しつつ、性的少数者等(多様性)についてもしっかりと早いうちから教育して行かなければいけないことを中心にまとめたいと考える。

●意見4)事業番号31の講座の実施状況については、4校(小学校2校・中学校2校)が実施しているが、スマホの取り扱いの講座であり、男女共同参画の視点を取り入れた所まで踏み込めていない。

\* P 6 基本目標Ⅳ-1 政策・方針決定過程への女性の参画の推進【女性の参画】

意見 6) 1 行目 「男女協働参画」という概念を理解してもらい

3 行目 「女性が入ってくればいい」という考えであつかわれても



あまり意味はない

意見8) 1行目 コミュニティレベルでの政策・方針決定過程

3行目 明確な目標値の設定

＝以上を中心にまとめたいと考える。

\* P 7 基本目標Ⅳ-2 地域・社会活動への男女共同参画の推進【リーダー育成】

意見6) 1行目 若手(30代・40代)の地域リーダーの育成と並んで、女性の

地域リーダー育成

＝以上を中心にまとめたいと考える。

\* P 7 基本目標Ⅳ-3 職域における男女共同参画の推進

意見1) 1行目 講演会、研修、アンケートなどで意識づけ

＝意識づけを地道にやって行く事が大切というところでまとめたいと考える。

\* P 8 基本目標Ⅳ-4 国際社会との連携

意見5) 1行目 異文化について知る、学ぶ機会を子ども達に引き続きできる

だけ多く与えて

＝以上を中心にまとめたいと考える。

●補足説明～意見2)誰を対象に行われているのかについて、宗像市はグローバル人材育成プランというのを作っている。グローバル人材育成というのは、子ども育成課の担当係がプランを持っている。基本的にはお互いを尊重し想像力を持って世界とコミュニケーションが出来る人材を育成する事を目標に様々な事業に取り組んでいる。

○P5基本目標Ⅲ-1～P8基本目標Ⅳ-4で、質問、意見等はないか。

○P5基本目標Ⅲ-2について、子どもの時から日常生活の中で自分の諸々の事が出来るようになるよう教えるべき事だと強調して欲しい。就学する以前の家庭での取り組みが、いかに大事なのかを若い両親に知ってもらう事が凄く大事であると思う。

○P7基本目標Ⅳ-2 意見4)はとても良いと思う。この意見を簡潔にまとめて反映して欲しい。

○「困りごと」や「自分たちの問題だ」という意識が醸成できるような題材を探し、それを共有できるという所からスタートせざるを得ないのではと思う。

○意見4)を読んで、男女共同参画と言っても結局は日々の生活の困りごと等に端を発しており、そこを元にしないとなかなかとつきにくい問題でもある。しかし、そこを中心に話していくと、具体的な解決策をみんなで考える事が出来るのではないかと思った。

○テーマの一つは、多様な人材、視点をどの様に入れていくのか。もう一つはコミュニティの在り方。男女共同参画だけに限らず、地域づくり町づくりをしていく中で、多様な視点をどのように取り入れ、それをきちんと配慮されていく事が大切である。地域によっては、若い人が入っていてもなかなか受け入れてもらえない事があるが、それは多様な視点到配慮できていないという事である。高齢者の意見が正しいという訳ではなく、若い人や男女問わず多様な視点を地域の中にどうきっちり入れていくのか、その中でコミュ

ニティがどれだけ寛容さを持っているのかがテーマになっている。女性や30代・40代男性がどれだけ地域に入り活躍できるのか。そんなコミュニティをどう作るのか。地域では「30・40代がない」だとか「協力してくれない」というが、そもそも平日に集まらないのが悪いという考えは、高齢者男性を中心として想定されている。慣例を超え、色々な人が参画しやすい土壌や仕組みは何かという所から考えると、多様な視点から取り組めると考える。

(3) 第3次宗像市男女共同参画プランの策定について(資料)

- 資料説明:第3次プランの施策の骨子(案)に基づいて、委員へ第3次プランの基本理念を考えていただきたい。

提出締切10月31日(木)

3 事務連絡

- ・懇話会議事録について…次回会議で承認  
…要点筆記で作成。完成次第送付するので、確認を。
- ・次回日程について…石川会長の出席出来る日程に合わせ、次回は11月29日(金)  
13時～14時と決定

次回予定

第3回宗像市男女共同参画推進懇話会(11月29日(金)13時～)

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

井川春奈

